

「チャレンジ100」表彰

昨年10月1日から今年1月8日までの100日間、県下で実施された交通の無事故・無違反運動「チャレンジ100」に南あわじ警察署管内から65チームが参加。そのうち無事故・無違反を達成した9事業所の43チームが6月4日に表彰されました。

※表彰事業所は次の通り(順不同)

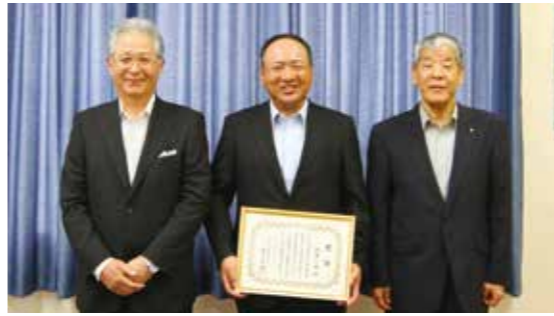
- ・アワジ建機
- ・あわじ島農業協同組合
- ・淡路ヤクルト販売
- ・北村電機



▲達成チームの事業所表彰伝達式

- ・きんでん神戸支店淡路営業所
- ・三洋エナジー南淡
- ・全淡建設
- ・森長組
- ・南あわじ市役所

榎本前消防団長に感謝状



▲岸谷兵庫県消防協会長(左)、榎本前消防団長(中央)

兵庫県消防協会副会長として県内の消防力強化に尽力した前南あわじ市消防団長の榎本一博さん(阿万)に対し、兵庫県消防協会岸谷会長より感謝状が授けられました。

榎本さんは昭和64年1月に南淡町消防団に入団、昨年度末に退団するまでの25年の永きにわたり、消防団員として消防活動に積極的に取り組みました。また平成24年に消防団長に就任してからは先頭に立って市の地域防災力向上に大きく貢献しました。

優良農家表彰

園芸施設共済加入者のうち、経営規模が平均以上で事故率が低く、経営状態が極めて優良な農家であるとして、兵庫県農業共済組合連合会長より表彰が贈られました。(順不同)

- 藤川 貴幸さん(市)
- 豊原 庄二さん(志知)



ゆめるんが「ひょうご」県内キャラクター総選挙で第2位!

兵庫県内16のキャラクターのランキングを決定する神戸新聞社企画「ひょうご県内キャラクター総選挙2014」が行われました。市の子育て応援シンボルキャラクターのゆめるんも立候補し、昨年に引き続き、みごと第2位にランクインしました。

5月24日～6月2日の投票期間中にゆめるんは、市内ショッピングセンターで選挙活動を行いました。多くの人が暑い中、買い物途中にも関

わらず足を止め、可愛らしいゆめるんに1票を投じていました。

開票の結果、総投票数6600票のうち976票を獲得したゆめるんが第2位となりました。たくさんの応援をいただき心から感謝申し上げます。

これからもゆめるんは、まちの子育てを応援していきたいと思えます。また、どこかで見かけたら遠慮なく声をかけてください。



▲表彰を受けるゆめるん

吉備国際大学からのお知らせ

第2回吉備国際大学植物保護シンポジウム

平成26年7月22日(金)午後1時～4時40分の日程で吉備国際大学南あわじ志知キャンパスC棟3階大講義室にて、第2回吉備国際大学植物保護シンポジウム「淡路ブランド野菜の品質向上に向けて」を開催します。

昨今、農作物のブランド化や流通経路の多様化が急速に進むにつれ、競争力を持った農産物を生産・供給することが産地や生産者に強く求められる時代になりました。その中で、農産物の「安全性の管理」や「生産過程における防除」のあり方は、従来以上に、重要性を増してきています。

本シンポジウムは、レタスやタマネギなど、淡路ブランド野菜の病害虫防除を目指した公開講座です。参加費は無料ですので、時間のある方は是非、ご参加下さい。

※話題および話題提供者については下記の表のとおりです

会場 地域連携センター
 42・4812
 42・4708

	時間	話題	話題提供者
はじめに	13:00~	植物保護の教育研究への取組	眞山 滋志(吉備国際大学植物クリニックセンター長)
特別講演	13:10~	植物検疫とその課題	阪村 基(農林水産省神戸植物防疫所長)
	14:10~	農薬と食の安全・信頼 —農薬と食の安全性を科学的に考える—	梅津 憲治(吉備国際大学客員教授、東京農業大学客員教授)
	15:10~	休憩	
病害の発生状況と防除対策	15:25~	レタスおよびたまねぎの市場動向とJAあわじ島の課題	濱口 晴一(JAあわじ島営農部長)
	15:50~	レタスビッグベイン病の新防除技術の開発に向けた今後の研究	西口 眞嗣(兵庫県立農林水産技術総合センター病害虫部主席研究員)
	16:20~	平成26年産たまねぎの生育・病害虫発生調査結果	遠矢 純子(南淡路農業改良普及センター職員)

ふれあい市長室

正しく恐れ、そして備える!

南あわじ市長 中田勝久

6月3日、兵庫県から南海トラフ巨大地震・津波被害想定が発表されました。それにより、まず、淡路島内では南あわじ市、洲本市が震度7の揺れに襲われ、南あわじ市には地震発生後兵庫県下で最も早く、約40分で津波が到達し、津波高は最も高い想定で8.1mとされています。さらに、死者は県下4番目となる1473人、建物については、県下で最も多い、1万1255棟内、地震の揺れによる全壊棟数は1万229棟が全壊するという内容になっております。ただ、建物の耐震化率を97%に高めることや早期避難率100%の徹底並びに防潮堤強化などの防災・

減災対策によって、南あわじ市の死亡者を1473人から125人に減らすことが可能になり、地震の揺れによる全壊家屋も1万229棟から2841棟に減らすことが可能であるとの想定も同時に発表されました。そのため、地震の揺れから身をを守るための住宅の耐震化の推進、津波からの早期避難、発生後には「早期避難率100%!まず逃げる!さらに高いところへ!」を徹底することが必要です。また、身近な対策として家具の転倒防止などを徹底することも重要です。市では、逃げることを最優先するための防災訓練とともに、住宅の耐震化や避難路の整備、防災計画の見直しなどに取り組んでいますが、更にベッド周辺に安全な空間を確保する「防災ベッド」や家屋内の一部屋などを耐震化する「耐震シェルター」など、部分的な耐震化への助成などを実施するため対策本部を設置し積極的な推進を図ります。

6月初旬には、全国市長会議が開催され出席してまいりました。会議において、地震津波等防災対策の充実強化に関する決議をはじめ国への6つの要請を可決しましたが、中でも防災対策の充実強化については、財政措置も含めて、迅速かつ万全の措置がされるよう国に強く要請する内容でした。

地震津波の被害想定を単に恐れるのではなく、「正しく恐れ、逃げることを最優先にし、可能な限りの防災・減災対策を着実に進めていく必要があります。そのためには、国、県、市が連携協力をしていくことはもちろんですが、市民の皆さんのご理解と協働は欠かせません。



▲防災訓練の様子

市民の皆さんにおかれましては、避難グッズを日ごろから用意していただくなど、できる範囲での「備え」をしていただくとともに、防災訓練などに積極的にご参加いただき、防災施策へのより一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。